

<STEP2 事例 優先度の高い環境行動の実施>

省エネが生む快適空間 お客様満足度を高める旅館の環境対策

(株式会社北原 旅館こうろ 代表取締役 北原達馬さん)

取材日：2025.7.11

Q

取り組みの背景・きっかけ

A

- ・館内の電灯と電球の数が非常に多かったため、消費電力が多いのはもちろん、白熱電球は寿命が短く交換頻度が高いことが従業員の負担になっていた。
- ・消費電力の「見える化」サービスを利用している同業者から、実際に省エネ効果が出ている話を耳にし、自社でも導入することにした。
- ・「日本には元々“もったいない”文化があり、今さら外から言われることではない」が、業界全体ではサステナビリティや環境への配慮をする傾向があり、無視できない要素になってきていると感じる。

Q

取り組みの内容・取り組みを進める上で工夫したこと苦労したこと

A

- ・組合の提携商社であるネクシーズ ZERO（月々の固定費での設備導入を支援するサービス）を活用し、館内の照明を全てLED化した。
- ・館内の省エネルギー化を進めるため、補助金を活用して空調を効率の高い設備へ更新するとともに、客室の窓ガラスを複層ガラスに交換した。（国土交通省建築物省エネ改修推進事業）
- ・会社で使用する電気は“自分ごと”になりにくい。まずは従業員の意識を省エネへ促すため、電力の使用状況が数値とイラストの変化で表示されるデマンド監視機器（スマートエリア*）や、電力の使用状況により色が変わる時計（スマートクロック*）を設置した。*提供：日本テクノ㈱
- ・従業員スペースや社内イントラネット上に省エネに関する告知を掲載し、日常的な業務として「省エネ」を意識づけ、取り組みへの協力体制を整えた。
- ・厨房や配膳室の冷蔵庫の「霜取り時間」が重なっていたため、各冷蔵庫設備の霜取りのタイミングをずらすことにより、電力ピークのカットを実現した。
- ・セントラル空調方式からフロアごとに空調管理が出来るガスヒートポンプ（GHP）に変更した。電気代を抑えられ、また停電時でも稼働できることや、暖房能力が高く立ち上がり早いことが、「快適な空間の提供」につながった。



Q

成果とメリット

A

- ・LED化による省エネで、夜間にロビーの照明をつけたままでも従来に比べ電気料金を抑えることができ、“安心・安全なおもてなし”の提供につながっている。また、白熱電球に比べ電球の交換回数が激減、維持管理の事務負担が軽減されている。
- ・客室の窓ガラスを複層化ガラスにすることで冷暖房効率が向上。外部からの騒音も客室内で軽減され、宿泊客の満足度向上に貢献している。
- ・電気の「見える化」機器を導入したことによりピーク電力を抑えることが出来、契約電力*を10.8%低減させることに成功。使用電力量は16.8%削減を達成した。

*電力会社と結ぶ契約で定められた、使用可能な最大電力。契約電力の大きさに基本料金が変化する。



株式会社北原 旅館こうろ（代表取締役 北原達馬）
 京都市中京区、従業員：約50人（パート、アルバイト含む）
 事業内容：旅館業
[\(https://www.kohro.com/\)](https://www.kohro.com/)